

日本共産党市議団

小野寺幸恵・渡辺満
工藤良一・富岡隆

一般質問

工藤良一 議員

▼カジノを含む I R について
I R に対し、ギャンブル依存症を心配する市民の声や、「ギャンブル依存症は脳の病気で簡単に治らない」との医師の発言を紹介し、「I R 誘致の考えは変わらないのか」と市長に質問しました。



市長は「食っていきけるまちにするにはどうするかを考えなければならぬ」と、あらためて I R への意欲を示しました。

▼安全な草刈機について

繰り返し起る草刈時の事故防止策として、市議団の視察で体験した石が飛ばない草刈機を紹介し、活用を求めました。

教育長は「全小中学校で導入する」と答弁。道路・公園などを所管する都市建設部では、「4 台導入した。今後検証し、拡大したい」と答弁しました。

▼高齢者支援について

身内がない、迷惑をかけたくないなどの理由から献体を希望する高齢者が増えている問題で、相談体制について質問しました。

担当部長は、「悩みを抱えている方の相談窓口はあるので、そのなかで最期の相談があればのりたいたい」と答弁しました。

お金の管理ができずに電気を止められた方や、2 度のボヤを出した 1 人暮らしの高齢者を紹介し、支援していく制度・仕組みについていただきました。

担当部長は「関係部署と連携して早期発見し、1 人暮らしが困難な場合は施設入所などの対応をしたい」と答弁しました。

▼自然環境の保全について

昭和 49 年から毎年北海道に要望していた、美々川流域の自然環境保全地域の指定について、30 年度の要望項目から外した経緯を質問し、美々川に流入しているペンケナイ川・パンケナイ川を含めた環境保全の必要性をただしました。



小野寺幸恵 議員

担当部長は「早期の実現が難しく要望をいったん取り下げたが、環境保全の実効性ある対策について検討する」と答弁し、ペンケナイ川・パンケナイ川を含めることも明らかにしました。

▼介護保険について

30 年度から所得の高い方の利用料が 3 割負担になるため、サービス抑制の懸念から影響について質問しました。

担当部長は「サービス抑制を防ぐことが重要」との認識を示しました。また、要支援の方が介護給付費か

ら地域支援事業に移行しますが、国が定める事業費の上限を超える可能性があるため、一般財源の活用を求めました。

市長は「頭が痛い問題。予算をシユミレーションしながら考えていきたい」と答弁しました。

▼紙おむつの収集無料化について

2 歳までの子どもがいる家庭と紙おむつ給付事業を受けている高齢者のみに、ごみ有料袋の無償配布をしています。紙おむつのように無料収集することで、紙おむつ利用者全員が対象になり公平。年間約 400 万円の経費削減にもなる」と提案しました。

「内部で検討しているが方向性が者詰まっていない」との市長答弁を受け、廃棄物減量等推進審議会で検討することを求めました。

報告

富岡隆 議員

▼振興公社の事業報告について

昭和 40 年に 100% 市が出資して作った第三セクターである振興公社は、施設管理として大きな役割を果たしてきましたが、29 年度で解散します。



これまで振興公社が管理してきた屋外スケートリンクの製氷技術が高いことを評価し、新たな事業者になっても製氷レベルが低下しないよう

提案。担当部長は、「経験と技能を持つ者を配置する」と答弁しました。また、解散後の職員の再就職先について、振興公社の社長でもある副市長は、「市が責任を持つ」と答弁しました。

建設委員会

渡辺満 議員

▼畳の修繕について

市営住宅に入居し 25 年以上経過している世帯は 1,681 世帯ですが、畳の修繕がほとんど進んでいない現状から質問。あわせて、畳以外の修繕要望も聞き取ることを提案しました。



担当部長は「25 年が畳交換の目安」と説明し、住宅の整備計画策定後に修繕計画を作って対応すると答弁しました。

総合開発特別委員会

▼オスプレイの訓練について

今夏の北海道での米軍訓練で、初めてオスプレイの使用が予定されている問題で、事故を起こした同機種であり、市民の不安が大きいことを指摘。情報開示と安全安心の観点から、閉会中であっても本委員会を開くことを求めました。

担当部長は「詳細な情報がない」としながらも、委員会での報告を約束しました。